

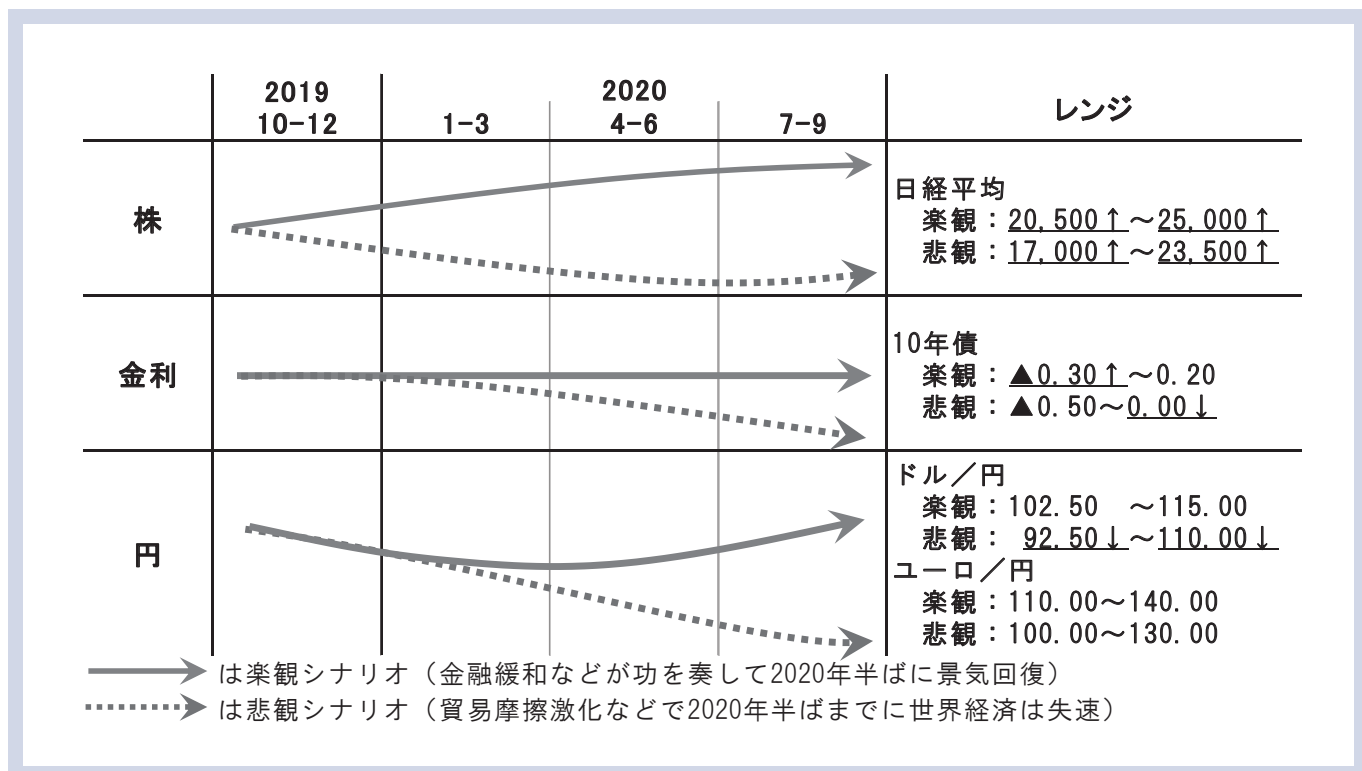
各国経済の6ヶ月見通しと向こう1年間の市場予想

(11月6日時点)

I. 各国経済の6ヶ月見通し

	コメント
① 日本	海外経済の減速に伴って輸出に頭打ち感がみられていることから、景気は足下で踊り場状態にある。中国をはじめとして海外経済に下振れリスクがあることに加え、消費増税後の景気への不透明感も強い。当面、景気は停滞感が残ることが予想される。
② 米国	米中対立による関税賦課など政策の不透明感の強まり、世界景気の鈍化、ドル高等が、景気の下押し圧力となるが、雇用・所得・資産残高の増加等による個人消費の押し上げを背景に潜在成長率を維持すると見込まれる。米中対立の激化、EUとの通商摩擦、ブレグジット動向、世界経済の一段の減速、金融市場の過剰反応等がリスク要因だが、リスク顕在化の際には、FRBは積極的な金融緩和措置をとらう。
③ 欧州	海外景気の減速や貿易協議の不透明感が欧州景気に影を落としている。製造業の業況判断が一段と冷え込んでおり、今後も景気拡大の足かせとなりそうだ。これまで景気を下支えてきた雇用所得環境の改善ペースも鈍り始めている。金融政策の限界も見え隠れするなか、財政政策との両輪での景気下支えに期待する声が高まっている。
④ アジア・新興国	アジア・新興国経済では、米中摩擦の緩和期待はあるものの、世界貿易の萎縮の動きは外需を通じて景気の重石になる。また、中国依存度が高い国を中心に中国の景気減速に伴う下押し圧力も避けられない一方、当面は緩やかながら中国の景気刺激策の効果の発現が期待され、アジアをはじめとする新興国への下支えも見込まれる。

II. 向こう1年間の市場予想イメージとレンジ



(注) 記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。レンジについては、前月号から変更した値に下線を引いております。(上方修正: ↑ 下方修正: ↓)